

所属・資格 地理学科・教授

申請者氏名 落合 康浩

研究課題		地域活性化策にみる地域資源活用の実態と課題に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、地域資源個々の特性を把握した上で、それらを活用し地域の持続的な発展を目指す施策をとりあげて、それらがかかえる課題等について検証することを目的とする。今日、日本の地域社会では、人口減少や少子高齢化が進行する中で、環境の悪化や産業・社会組織の衰退といった問題がより深刻化している。こうした問題の解消を図るため、地域資源を活用して地域活性化をはかろうとする施策も増えたが、地域資源の価値が開発手法の中に十分反映されていないと考えられるものも多い。そこで本研究では、国内外の事例地域における地域活性化策の実態を現地調査にもとづいて整理しながら、そこに生じている問題点等について分析するとともに、それらがかかえる課題について考察する。
	研究の 結果	富山県の富山市とドイツのバイエルン州において、地域資源活用の実態に関する現地調査を実施した。富山市には市内に3系統の路面電車が運行されており、普通鉄道や路線バス網などと合わせて都市中心部と周辺地域とを密に結んでおり、その利便性が高い。富山市では、充実するこれら公共交通網を重要な地域資源として位置付け、その整備を進め、利用頻度を高めることで、中心市街地及び都市圏域の地域振興を実現するための計画を進めている。バイエルン州においても公共交通網の整備は進んでおり、都市における重要な地域資源としてとらえられる。大都市であるミュンヘンは普通鉄道、地下鉄、路線バスの充実に加え、路面電車も中心市街地と周辺地域とを結ぶ路線が11系統も運行されている。路面電車はミュンヘンのほかニュルンベルクや、中小規模の都市であるアウクスブルク、ヴュルツブルクでも運行されている。加えてそれぞれの都市圏において他の公共交通との共通料金体系が運用されていることから、乗り換えも容易で、その利便性は高い。
	研究の 考察・ 反省	富山市は、中心市街地と都市域内に分散する生活拠点とを公共交通網によって結び付けることで、中心市街地の求心力を高めることを目標にしている。確かに高い頻度で運行される路面電車の利便性は高いが、中心市街地における商業機能の衰退傾向は続いており、その回復を進めるなどして来街者の滞在時間をのばし、回遊性を高めるためのさらなる工夫が求められる。バイエルン州における諸都市では、旧市街など都市中心部の比較的狭域に商業機能や観光地といった都市の魅力となる要素が集積しており、来街者は比較的長い時間、都市の中心部に滞在することになる。歩行者優先の道路や空間が十分に確保され、まちの中における回遊性も高い。一方で中心部への自家用車の乗り入れは制限されているため、都市圏内における移動には、必然的に利便性の高い公共交通網を利用することが多くなる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	なし	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者		